

惑星科学フロンティアセミナー2024参加報告

高橋 聖輝¹



図1: セミナーの様子。

2024年9月16日(月)から9月19日(木)の4日間にかけて「惑星科学フロンティアセミナー2024」が北海道石狩郡新篠津村にある「しんしのつ温泉 たっぶの湯」で開催されました(図1)。新篠津村でのフロンティアセミナーの開催は、昨年に引き続き2回目になります。惑星科学フロンティアセミナーは、惑星科学に関する幅広い問題について、テーマを絞って講義をしていただき、議論を行う合宿形式のセミナーです。今回のフロンティアセミナーの参加者は講師を含め20人で、様々な分野の参加

者が多角的な視点から議論を行い、刺激的な時間を過ごすことができました。また、セミナー期間中、毎日行われた夕食後の懇親会では、普段あまり接することのない先生方とお話をさせていただく大変貴重な機会となりました。さらに、様々な大学から参加した学生と積極的に交流を持ち、お互いの研究内容について議論を行い、非常に有意義な4日間となりました。

ここからは、2日間にかけて行われたセミナーの内容について簡単にお伝えします。惑星科学フロンティアセミナー2024の講師は宇宙科学研究所の佐藤毅彦氏で、「20世紀の木星オーロラと21世紀の金星探査」

1.北海道大学理学院宇宙理学専攻
tmasa@ep.sci.hokudai.ac.jp



図2: 講演中の佐藤毅彦氏。

というテーマで講演をしていただきました (図2)。セミナーの具体的な章立ては以下の通りです。1. 自己紹介、2. 木星オーロラ研究史、3. 木星型惑星の21世紀の描像、4. 20世紀の金星探査。初日は1章から3章についての講義が行われました。1章では、講師である佐藤毅彦氏の学生時代から現在まで行ってきた研究や学校現場と連携し、天文台や星座カメラを設置しているというお話をいただきました。2章では木星の磁気圏、木星のオーロラの観測、および、木星オーロラの発光源分布の定量化や低緯度発光の解析についての講義でした。木星磁場モデルの改良や観測の改善とともに木星オーロラの研究も発展したことがよくわかりま

した。3章では、主に土星について着目し、自転周期の推定方法、オーロラや突発的に現れる大白斑について時間が許す限り紹介していただきました。2日目は4章についての講義が行われました。導入として、金星大気の温室効果や金星雲の観測、スーパーローテーションについての講義をしていただいた後に、20世紀の金星探査史、そして21世紀の金星探査として「あかつき」について詳しくお話ししていただきました。本セミナーの様子は MOSIR プロジェクト(<https://www.cps-jp.org/~mosir/pub/>)によって記録されており、講義資料・動画はホームページ上で公開されています。もし、興味がある方や詳しい内容を知りたい方は、公開されている資料も参照していただければと思います。

最後に、2日間にわたって、長時間の講義をしてくださった佐藤毅彦氏に改めまして感謝を申し上げます。また、議論を盛り上げてくださった参加者の皆様、そして、本セミナーの企画・運営をしてくださったフロンティアセミナー実行委員会の皆様にも感謝いたします。また、日本惑星科学会様には参加費を補助していただきました。ここに感謝いたします。この参加報告書を読み、フロンティアセミナーに興味を持っていただいた方の来年度の参加をお待ちしております。

著者紹介

高橋 聖輝



北海道大学理学院宇宙理学専攻。